

自己評価報告書

平成 23年 5 月 13 日現在

機関番号：82617

研究種目：基盤研究B

研究期間：2008～2012

課題番号：20300290

研究課題名（和文）

徳川将軍親族遺体のデジタル保存と考古学的・人類学的分析—大奥の実態に迫る—

研究課題名（英文）

Anthropological and archaeological research and digital data preservation of the skeletal remains of the families of Tokugawa Shoguns

研究代表者

馬場 悠男 (Hisao Baba)

独立行政法人 国立科学博物館・人類史研究グループ・名誉研究員

研究者番号：90049221

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：文化財科学・文化財科学

キーワード：動植物遺体・人骨

1. 研究計画の概要

本計画の目的は、歴史的に貴重であるにもかかわらず改葬のため実物が失われる将軍親族遺体から考古学的・人類学的な情報を抽出し、後世においても科学的に検証できる形で保存することである。

2. 研究の進捗状況

(1) 過去の研究書や報告書を検討した上で、最も適切に骨の形や色調を再現する写真撮影方法を開発し、全ての骨を高精細デジタルカメラで撮影した。

(2) 様々なデジタル化手段を検討した結果、全身の医療用CT撮影と頭蓋のマイクロCT撮影が最も情報量が多いことが判明し、全個体の撮影が完了した。

(3) 形態学的比較研究の結果、大奥で生活していた将軍親族は、遺伝的な構成において現代人と大きく異なることはないが、人骨の形態は非常に特殊であり、鎌倉時代から現代までの日本人の小進化プロセスとは異なる特徴を持つことが明らかとなった。

(4) DNA 分析、安定同位体食性分析、寄生虫・花粉分析、重金属分析の結果も出ている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

現在までに、資料のクリーニング、保存処理、同定、写真撮影、CTによるデジタル保存が終了し、研究結果とデータをまとめた報告書の出版準備中である。

4. 今後の研究の推進方策

研究成果をさらに精査し、学会および学会誌で発表する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 0 件)

〔学会発表〕 (計 0 件)

〔図書〕 (計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

[その他]